

坂東会

八代目所蔵の

浮世絵鑑賞

「市かへり」

花川亭国富画（初代歌川国富）



画像提供：国立劇場

文政十年（二八二七）、江戸・市村座で上演された「萬歳阿国歌舞伎」の二番目所作事「月雪花蒔絵の扨」から三代目坂東三津五郎の「市帰りのいさみ」です。これは月・雪・花で構成された変化舞踊の「雪の巻」の一場面にあたり、現在は通称「納豆売り」として坂東流に伝わっています。納豆売りは冬の早朝に市中を歩く江戸独特のもので、古くは冬至から売り始めました。

三代目が演じた「いさみ」とは男気にとんだ、威勢の良い侠客風の人のこと。ここでは鳶職の設定で、歳の市で買った品を背負っています。桶は毎年新調する若水用の桶、中に注連飾りや裏白などが入っているのが見えます。江戸では十二月中旬から深川や浅草に正月用品を商う市が立ち、こうした品々はこの歳の市で賈いました。

文政十年の公演では「湯帰りの芸者」を岩井糸三郎、「納豆売り」を七代目市川團十郎が勤めました。本浄瑠璃の納豆売りの詞章がしりとりとなっていて、上演当時大当たりし、のちに端唄「のぼり夜舟」に取り入れられ、大流行したと記録されています。

（根岸美佳・角川武蔵野ミュージアム学芸員）

*八代目家元が国立劇場へ寄贈した浮世絵は約一七〇点以上にのぼり、その中から主に踊りに関するものを取り上げ鑑賞します。

次男誕生の喜びに続き、十代目の七回忌追善狂言が決定

家元 坂東 巳之助



先ずは、七月五日に次男・維真いままが誕生しましたことをご報告致します。

あいもかわらぬコロナ禍にあつて立ち会いは難しいかと思つておりましたが、色々タイミングよくなんとか新たな生命の誕生に立ち会う事が叶いました。入院期間のお見舞いは一切出来ないという事でしたので、タイミングが悪ければ我が子に直面できるのは生まれてから一週間後……といった事も考えられましたから、本当に良かったです。

入院期間中の長男・緒兜との完全な二人暮らしも新鮮で、早いもので三歳を目前にした緒兜が弟の誕生をなんとなくながらも理解し、ま

だ見ぬ弟との対面にワクワクしている姿は微笑ましく良い日々でした。芝居がお休みだった事も含めてこればかりはコロナ禍でなければ実現しなかつた事かも知れず、そう考えるとなんと複雑な思いが致します。

時節柄、倅たちも私自身もなかなか皆様に御目に掛かる機会の少ない状況ではありますが、当家にとっては本当に久しぶりの男兄弟、緒兜と維真を何とぞ末長くよろしくお願い致します。

話は変わって、八月三十一日に一回目のワクチン接種を致しました。もつと以前に接種券は受け取つていましたが、副反応による発熱等があると聞いていたので妻の出産前後や芝居中の接種は避けていました。一回目では微熱や腕の痛みなど比較的軽い副反応が多いとも聞いていましたから、念の為といった所です。しかし結果的にその判断は正解だったと言える事態になつてしまいました。

先ず接種した直後は聞いていた通りの軽い腕の痛みがある程度でした。翌日、37度前後の微熱と気怠さが現れましたがじきに治るだろうと一日安静にして過ごしておりました。しかし翌朝目覚めると全身に発疹が出ており、微熱

と怠さも変わらずといった状況。かゆみなどは一切なかつたのは不幸中の幸いでしたが、その日もほとんど寝て過ごしました。

明けて九月三日、とてもスッキリと目が覚め腕の痛みもほとんどなく、鏡を見ると発疹もかなり治つていたので安心して一応熱を測ると、なんと37度8分。熱がある事以外は一切症状がなく身体感覚としては健康そのものだったので、俄かには信じ難い状況でした。とはいえ熱があるのは紛れもない事実であり、一回目の接種でここまで長期の発熱というのは素人ながらに調べた限りではほとんど報告もなく、ここまでくるとワクチンの副反応ではなく新型コロナウイルス感染も疑わねばならないか？といった所でした(先に書いておきますが、幸いこれは杞憂でした)。

こうした経緯があり、九月四日に予定していた名取試験・師範試験を急遽中止とさせていただきます。前日という土壇場での中止となつてしまい、受験予定だった方々には多大なるご迷惑をおかけしてしまいました。四日もあれば大丈夫だろうとたかをくくっていた私の不徳の致すところですので、この場を借りてお詫び申し上げます。

結局この微熱は四日の夜まで続きましたが、徐々に下がっていつて現在はすっかり回復しております。

本稿を書いている現在は未だ二回目接種前であり、大変不安な思いでおりますが、かかりつけのお医者様に相談して接種前後に飲む薬を処方して頂きましたのでそれをしっかりと飲んで臨みたいと思います。何事もないことを祈るばかりです。

最後になりますが、来たる十一月歌舞伎座におきまして父・十代目の七回忌追善狂言として『寿曾我対面』がかかり、私は曾我五郎時致を勤めさせていただく事と相成りました。

ウイルスの脅威が衰えるどころか増している中であって、七回忌らしい事が何一つ出来なまま一年が過ぎていくことを倅として心苦しく思っておりますが、音羽屋さんのご提案で歌舞伎座で追善狂言をさせて頂ける運びとなり、私自身大変嬉しくありがたく思っております。

本来ならば流儀としても七回忌法要など催すべき所、安心安全な状況・環境、これならば絶対に大丈夫だと言える開催の仕方が見えぬまま今日に到ってしまった事、本当に申し訳ございません。

皆様の父を想って下さる御心は重々承知致しておりますし、私自身も父の回向を務める責を果たしたいと思っておりますので、世の中が落ち着きを取り戻しましたら必ずやその場を

ご次男誕生！



奥様の彩さんから
お言葉をお寄せ
いただきました。



緒兜は弟が生まれたことをとても喜んでいて「いまくーん、いまくーん」と構いたくて仕方がない様子です。維真はお兄ちゃんが騒がしい中でも、よく寝てご機嫌でいてくれます。

緒は“むすぶ” 維は“つなぐ”
兄弟なかよく、成長してくれたら嬉しいです。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

設けさせて頂きます。何卒ご理解のほどをお願い申し上げます。

まずは『対面』での五郎をしっかりと勤める事、その責の一端を果たす所存でありますが、まだまだ先行きの見えぬ世の中ですので劇場

へお越し頂いてのご後援をお願いする事は致しません。

皆様お一人お一人が安心して過ごせる場所から、公演の成功をお祈り頂きますようお願い申し上げます。

父・八代目との
おもひで



京都の家でのお稽古の様子。左から八代目、慶子、寿子、三津三郎

八代目は坂東流家元としてチャリティー舞踊会や機関誌発行を発案するなど、坂東流の伝承、発展のために尽力しました。また、豊富な知識は歌舞伎、舞踊にとどまらず、骨董、浮世絵、茶道など多岐にわたり、多くの著書を残しています。

さて、素顔の八代目は……？ 八代目の三女である寿子先生の「よもやま話」第二話です。

戦争、そして京都での生活

父、八世三津五郎については、いろいろな書物に語られていると思いますので、普段の父についてお話ししたいと思います。

父は「喜・怒・哀・楽」がはげしく、ひとりで言えば子どものような人でした。

私が五歳の時、急に京都に連れて行かれ、下河原の家で父と二人だけの生活が始まりました。私にとっては、母がいなくてちよつと淋しいけれど、父を独占できるのがすごくうれしかったのを覚えています。お手伝いさんに連れていかれ、下河原の幼稚園に

半年ぐらい通い、それから下鴨梅ノ木町の家に引っ越し。と同時に、東京から母と姉二人がやって来て、一家揃っての京都での生活が本格的にスタートしました。

戦争はその頃から激しくなり、父は芝居もできない、兵隊にもなれなかった等々で、家の中で始終イライラしていました。母にあたり、暴力をふるうこともあり、そんな時は私たち三姉妹で、「今日は爆弾二発」「今日は焼夷弾三発（声だけの時）」などと言って布団をかぶり、一番上の姉が私を抱いて寝ました。

戦争も末期になると東京で焼け出された人たちがぞくぞくとやって来て、一時期はわが家に、三家族十七人が同居していました。その人たちが各々住家を見つけていなくなり、父と姉が群馬県の安中村にいる七代目を迎えに行き、やつと落ち着いた京都の生活がこれから始まると実感することができました。七代目夫婦を迎え、父も穏やかになり、それからの三年間は父が一番幸せな時期であったろうと思います。

七代目が京都にいる間、父は毎日のように七代目と芝居の話をしていて、実に楽しそうでした。それが『父・三津五郎』をはじめとした後の著書となったのではないのでしょうか。ま

た、関西には三津美、三津麓、三津加寿、三津繁、三津貞、三津子がいて、この人たちを集めて父が七代目にお稽古を願いました。弟子思い、そして坂東流の発展を心から願っていた父の側面がこうした行動に現れています。

弟子たちに芸を伝える姿勢

七代目が東京に戻ってから一年後、梅ノ木町の家から吉田神社の参道の裏に引越しました。

父は家にいる時はいが本を読むか、車が好きで母と私たちを乗せてのドライブ、骨董屋めぐり、それと稽古、この四パターンでした。芝居の公演が始まると、その公演の役の人格を家まで持って帰るので、『夏祭』の義平次、『忠臣蔵』の師直などの役の時、家中がピリピリしていました。また、東京から知人が来ると必ず家に連れてくるので、家ではいづどなたがいらっしゃってよいように準備していました。

当時、父には三津右衛門、三津三郎、という二人のお弟子さんがいました。二人は兄弟で、三津右衛門は「あんちゃん」、三津三郎は「とよちゃん」。父はこの二人をすごく頼りに

していました。あんちゃんは踊り、とよちゃんは芝居、二人はそれぞれの分野で生き字引のような存在だったのです。

なぜ二人のことを言うかというと、あとから来た三津二郎、三津兵衛、この二人にとっても大事な人だからです。男の子の弟子は坂東流にとつて貴重な存在だったので、三津二郎こと理なむらが高知から来た時は、何かにつけて「理!!理!!」と。そして、三津右衛門と三津三郎からひと通りのことを覚えさせたあとは東京の七代目の元へ預け、入れ替わりに三津兵衛こと英一がやって来てからは、朝から「英一!!英一!!」です。本当にお弟子さんを大



八代目とひろ子夫人

切に可愛がって、一人前の舞踊家として大成するように育てていました。

弟子思いで稽古好きのマイホームパパ

父は稽古が好きで、芝居が休みの時は必ず家で稽古。自分の稽古だけでなく、名取さんを集めてお稽古をしていました。ですから関西の名取さんたちは、一度は吉田の家に稽古に来ていたと思います。

この稽古は東京に移ってから変わらず、名取さんの上下関係など頓着なく稽古をするので、大きいお師匠さんたちからクレームが来たことがあります。しかし父は、「自分のためになる稽古だから、いいだろ」と、来るものは拒まずの精神で通し、稽古をしていました。

芝居がない時は夜八時に就寝し朝五時に起きるなど、家の者みんなを困惑させることもある父でしたが、弟子思いで稽古好き、そして本質的には「マイホームパパ!!」だったと思います。

『初心忘れず』が

完成しました



八月にお手元にお届けしましたが、坂東会創立一〇〇周年を記念した書籍『初心忘れず』を刊行しました。

巻頭の写真ページから始まり、初代から当代までの家元の紹介、坂東流・坂東会のために尽くされたお師匠さんの紹介、坂東会一〇〇年の歴史、坂東流にゆかりの演目のリスト、坂東流事典など、これ一冊で坂東流、並びに坂東会の概要をつかめる内容となっています。

特に「聞き書き 懐かしのお師匠さん」は、お弟子さん方に取材した貴重な記録です。明治、大正、昭和ひとけた生まれのお師匠さんたちが、どんな姿勢で踊りに取り組み、情熱を注いだか。昔のお稽古はどんな様子だったか、などを語っていただきました。時代は変わっても、今に通じる貴重な言葉が随所に散りばめられています。

刊行に際し
多くの方からお言葉をいただきました

- なつかしのお師匠さん、歩み、演目と、会の皆さんの柱になる財産になりました。(歌舞伎研究者・古井戸秀夫先生)
- 個人の記憶でしかとどめられない舞踊の世界を、記録として坂東会をたどることで坂東流の歴史を形にしたことは意義のあることと思います。これだけの労作、十代目三津五郎さんがお喜びだと存じます。(京都芸術大学教授・田口章子先生)
- 写真、硬軟の文章が散りばめられていて、楽しく坂東会の百年、坂東流の江戸からの流れを拝察いたしました。(舞踊評論家・平野英俊先生)
- 丁寧に編集された美しい本で、とてもうれしく思いました。お師匠さんたちの聞き書き、特に楽しく拝読しました。(演劇評論家・長谷部浩先生)
- 記念本の刊行は大変な作業をこなされたことと存じます。大切に読ませていただきます。(三津蔵門弟一同)
- 早速一ページずつめくって、楽しんでおります。(坂東秀一)
- コロナ禍のガマン、ガマンの毎日の折、「初心忘れず」の二本が届き、時間のたつのも忘れページをめくってしまいました。懐かしい諸先生方のお顔や言葉、昔にかえったようでした。(坂東京鶴)
- 立派な書籍を頂戴いたしありがとうございます。大切に拝読させていただきます。(坂東信知寿)
- あらためて、長い間坂東会にお世話になったことを誇りに思います。宝物にします。(坂東佳澄)
- 労を尽くして記念の書を完成されましたこと、重ねてお祝い申し上げます。ありがたく拝読させていただきます。(坂東恵実)

※いただきましたメール、お手紙の文面から抜粋して掲載。

動画配信

「三津之丞お師匠さんの思い出を語る！」

舞踊家、そして振付師として活躍なさった三津之丞お師匠さんの思い出を、ゆかりの深い先生方をゲストに迎え対談形式で動画配信します。司会進行役は三信之輔さん、以津緒さん。三津之丞お師匠さんのお人柄やエピソード、振り付けされた作品を、三津以先生や勝友先生、佳津先生の貴重な動画やインタビューを交えながらご紹介します！

配信は坂東流ホームページ(会員ページ)にて年内公開予定です。貴重なお話や映像をお届けできるかと思っておりますので、乞うご期待ください。



坂東会創立100周年記念舞踊会を開催します

令和2年開催予定でしたが、感染症拡大により延期になりました100周年記念舞踊会がいよいよ開催の運びとなりました。番組も整いましたのでお知らせいたします。

日時 令和四年九月十七日(土)・十八日(日)

【昼の部】午前十一時開演
【夜の部】午後四時三十分開演

会場 国立劇場大劇場

入場料 一階席・二階席：八千円(昼夜入替)全席自由席
三階席：三千円(昼夜入替)全席自由席

九月十七日【昼の部】

長唄 花かつみ
長唄 秋の色種
義太夫 女夫人形
長唄 水仙丹前
清元 保名
義太夫 五人三番叟
常磐津 長唄 男女道成寺
長唄 鶴亀
長唄 賤機帯

九月十八日【昼の部】

序幕 未定
長唄 傾城道成寺
長唄 藤娘
長唄 桜絵巻
長唄 旅
長唄 田舎巫女
義太夫 旅情とところどころ
義太夫 団子売り
清元 長唄 喜撰

九月十七日【夜の部】

清元 四君子
清元 幻枕久
大和楽 江戸風流
清元 峠の万才
長唄 女伊達
新内 江戸広重八景
清元 豊後道成寺
長唄 難波土産
清元 喜撰

九月十八日【夜の部】

長唄 鶴亀
長唄 禿
義太夫 大江戸両国花火
清元 保名
長唄 伊勢参宮
常磐津 大坂万歳
萩江 八島
常磐津 旅雀
常磐津 長唄 奴道成寺

出演者一覧

坂東 久三之助	坂東 仙章	坂東 三千梅	坂東 以津緒	坂東 加浦	坂東 桂子	坂東 雅	坂東 三千踊	坂東 三寿珠	坂東 三代智	坂東 峰寿美	坂東 喜代信	坂東 章太郎	坂東 勇弥	坂東 三信之輔	坂東 愛	坂東 一二三	坂東 啓	坂東 千扇	坂東 香代	坂東 三津兵衛	坂東 三寿舟	坂東 永紫	坂東 三津桜	坂東 三津二郎	坂東 三津映	坂東 三津映	坂東 里子	坂東 幸奈	坂東 秀子	坂東 秀子	坂東 寿子	坂東 巳之助		
坂東 映司	坂東 秀惠美	坂東 朋奈	坂東 三貴扇	坂東 祐三扇	坂東 映佐	坂東 三太映	坂東 三奈慧	坂東 映祐	坂東 真起文	坂東 勝規	坂東 志乃矢	坂東 映寿	坂東 映寿	坂東 加代壽	坂東 三鏡扇	坂東 智和	坂東 和治	坂東 京弘女	坂東 富三乃	坂東 三知明貴	坂東 友女裕	坂東 蝶	坂東 弥余伎女	坂東 若梢	坂東 友女香寿	坂東 三寿智	坂東 三寿智	坂東 寿雀	坂東 三裕起	坂東 三知	坂東 三知	坂東 八都代	坂東 州寿	
坂東 小菊	坂東 香寿由	坂東 あき	坂東 久三菜	坂東 香寿美翔	坂東 映心	坂東 鈴梢	坂東 扇輔	坂東 真祥三	坂東 以和	坂東 勝梓	坂東 香寿真央	坂東 映琴	坂東 愛寿美	坂東 愛志乃	坂東 寿々風	坂東 梅優貴	坂東 彦祥三	坂東 一る	坂東 幸緒里	坂東 梅千穂	坂東 映志保	坂東 映小菊	坂東 映小菊	坂東 映小菊	坂東 映小菊	坂東 映小菊	坂東 映小菊	坂東 映小菊	坂東 映小菊	坂東 映小菊	坂東 映小菊	坂東 映小菊	坂東 喜美生	坂東 藍乃
中村 元子	白井 那律	深田 愛衣	坂東 香寿依稚	坂東 菊ひろ	坂東 菊	坂東 香寿舞	坂東 優三郎	坂東 大夢	坂東 香寿音	坂東 香寿重	坂東 香寿徳	坂東 香寿三郎	坂東 香寿菜美	坂東 香寿桃	坂東 以紗緒	坂東 信唄音	坂東 舞花	坂東 香寿梓之	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃	坂東 佳緒乃

歌舞伎役者として、坂東流の家元として、常に上を目指し五九年という人生を駆け抜けた十代目。爽寿、一万尺という俳号を持ち、句作にも熱心に取り組んでいました。その俳句を紹介しながら、十代目と縁のあった方たちにエッセイをいただきます。第二回は、十代目の俳句の師匠でいらっしやる黛まどか先生です。「三津五郎さんは俳句に對して真摯に学んでいらしたので、とても上達が早かったです。多くの佳句を詠まれていたので、今ご存命でしたら……」と黛先生。十代目との出会い、そして別れまでをご寄稿いただきました。

出会いも別れも俳句

黛まどか

三津五郎さんと初めてお会いしたのは、十代目の襲名披露を控えた平成十二年（二〇〇〇）の暮のこと。「産経新聞」の新春対談だった。三津五郎さんは俳句に大変興味をお持ちで、拙句を幾つも誦んじて下さっていて、感激したのを覚えている。また歌舞伎役者はみな俳名を持っているのに、実際には俳句を嗜んでいないことをしきりに嘆いていた。「昔の役者は茶道や俳句を嗜み、教養がありましたよ」と。確かに歳時記などを読んでいると八代目をはじめ昔の歌舞伎役者の句に出会うことがある。

三津五郎さんの強い希望もあって、対談の

翌年に「百夜句会」が発足した。俳句は、歌舞伎や日本舞踊と同様に「型」を重んじ、四季の移ろいを大切に作る。勉強熱心な三津五郎さんは、あつという間に俳句の神髓を会得した。

「自宅から歌舞伎座まで、毎日のように皇居の脇を車で通り過ぎていたのに、掘端の柳が四季折々あんなに表情を変えるなんて、これまで気づかなかったよ」。俳句を詠むようになって迎えた初めての春、三津五郎さんは目を輝かせながら芽柳の美しさを称えた。

討入を果たして残る紙の雪

坂東三津五郎（一万尺）

芝居をテーマにした句はまさに三津五郎俳句の真骨頂だが、日常身辺を詠んだ句には、素の守田寿さんが顔を見せる。

子の帰り待つ身となりし夜長かな

特に夜を詠んだ句はしみじみと佳句が多い。三津五郎さんの句風は芸風に通い、骨格がしっかりといて端正だ。正統派で一見おとなしいが余情があり、滋味深い。

舟唄の闇に溶けゆく白露かな

『芭蕉通夜舟』（井上ひさし原作）で松尾芭蕉を演じた折には、「俳句に出会っていたお陰で、芭蕉の葛藤を深く理解できましたよ」とつくづくと俳句との出会いに感謝してくれた。

また俳句を通して、踊りの一つ一つの振りに裏付けができてきたとも言っていた。「例えば花を眺めるにしても、牡丹か菫か桜かで目線ひとつの柔らかさなど全然違ってくるんです」。

平成十六年(二〇〇四)五月、病で倒れた團

十郎さんに代わり『勸進帳』の弁慶を演じていた三津五郎さんから「折り入って頼みたいことがある」と電話がきた。日本舞踊のための新曲を作りたいので協力してほしいという。「歌舞伎も俳句も今は隆盛だが、三十年後は心配だ。今のうちに策を講じないといけない。昼の部・夜の部と出さずばりで疲労困憊しているに違いないのに、声には気力が漲っていた。制作したCD『舞踊の四季 日本舞踊小品集』には、拙句とあわせて氏の句も収録された。

「正統派が盤石であつてこそその新しい流れだ」。グローバリゼーション一色だった当時、日本舞踊にせよ俳句にせよ、日本固有の伝統文化でしかも正統派を貫くことは、相当に難しいことだった。三津五郎さんは私を「戦友」と呼び、垣根を越えて日本文化継承のための多くの活動を共にした。

平成二十四年(二〇二二)十二月、盟友中村勘三郎氏が五七歳で早逝した。何があっても恬淡と構えて決して弱音を吐かなかった三津五郎さんが、この時ばかりは「まるで半身もがれたようだよ……」と愁嘆した。

共に舞ふ姿を永遠に冬銀河

三津五郎さんに早期の膵臓癌が見つかったのは翌年の夏のこと。「最愛の祖母を同じ病で亡くしているからね。そう簡単ではないとわかってはいるよ」と、どこか覚悟を決めているように見えた。摘出手術は成功したが、その後の三津五郎さんの句には、生と死を静かに見つめる眼差が感じとれた。

友の死と自らの病を乗り越え、氏は平成二十六年(二〇一四)四月、『寿靉猿』で歌舞伎座に立ち、見事復帰を果たすと、同年八月に大佛次郎原作の『たぬき』に出演。死んだはずの主人公が生き返る話で、十年ぶりの再演だった。「膵臓癌から生還して演じるのだから、前回とは格段に思いが違うよ」。歌舞伎座から「百夜句会」に直接駆けつけた三津五郎さんは、感慨深げに言った。

平成二十七年(二〇二五)一月二十日、「百夜」の新年句会を東京丸の内のレストランで行った。第八十夜だった。これが別れの日となった。「明日治療があるから」と一足先に出た三津五郎さんは、東京の街の灯に一人紛れていった。

三津五郎さんとの縁は、始まりも終わりも「俳句」であった。そして三津五郎さんは今もその俳句の中で端正に、艶やかに、時にお茶目に、粹に生き続けている。



黛まどか

俳人。平成十四年(二〇〇二)句集『京都の恋』で山本健吉文学賞受賞。平成二十二年(二〇一〇)より一年間文化庁「文化交流使」として欧州で活動。スペインサンティアゴ巡礼道、四国遍路等を踏破。「歩いて詠む・歩いて書く」ことをライフワークとしている。令和三年(二〇二二)より「世界オンライン句会」を主宰。オペラの台本執筆、作詞、大学客員教授など幅広い分野で活躍。近著に『暮らしの中の二十四節気 丁寧に見てみる』(春陽堂書店)。

伝承 坂東流

監修 坂東寿子

第七回 傀儡師

三代目による初演から当代まで

文政七年（一八二四）九月、江戸市村座で流祖三代目坂東三津五郎が「復新三組蓋」と題した変化舞踊の一つとして初演。『傾城』『大山参り』『傀儡師』の三変化に雀踊りがついたものでした。掲載の錦絵には、傀儡師の三代目三津五郎に二人の唐子人形、市村羽左衛門と坂東玉三郎（五代目三津五郎の幼名）が描かれており、当時から唐子を出す演出がなされていたことが分ります。

七代目は大正期に復活させ、その絶品の芸はたびたび本興行にかけられました。七代目自身も大変好きな踊りで、まだ一歳二カ月の十代目を抱いて舞台に立たれた写真をご存じの方も多いでしょう。

八代目も二度、本興行にかけています。

そして九代目は「登舞の会」において流祖三代目三津五郎初演作品の復活再検討に挑み、第二回目に「復新三組蓋」を取り上げます。一人で三変化を手掛ける考えでしたが、時間の都合で『山帰り』は十代目が踊りました。

十代目は十代の青年期に明治生まれの三津蔵師に教えを受けますが、「旦那、私の教え方が悪いんでございましょうか。全然おできになりません」と七代目の写真に向かって拝まれてしまった」と述懐しています。時を経て四十代後半で踊った時には、「自分の思ったことのみ半分もできていないので、さらに勉強、まだまだ踊り続けて洗い上げていかなければいけない」と話しています。

また当代の初お目見得も『傀儡師』の唐子で、九代目の傀儡師にお孫さん七人とお流儀の子どもたちが出演。千種楽の日は、十代目が唐子に膝立ちで出演するというお楽しみ付きの一幕（九代目に内緒のサプライズ）で、客席は何ともほほえましい空気に満たされました。

役柄の仕分けと 静から動への変化が肝要

『傀儡師』には、傀儡師のほかに、仲人、母と三人の息子、夜鷹、瞽女、巫女、市子、吉三とお七、弁長、牛若丸と浄瑠璃姫、義経、知盛の亡霊等、さまざまな人物が登場します。当然のことながら、役々を仕分けて変化をきつぱりさせなければなりません。

例えばお七と浄瑠璃姫はどちらも恋する身ではありますが、品、性格、事情の違いが振りにも表わされていますし、義経と牛若丸では年令の違いを心に留めることが求められます。また、『傀儡師』の「ちよぼくれ」は弁長と



『名作歌舞伎全集 第二四巻』東京創元社より転載

いう安坊主で、『喜撰』と振りは似ていますが違えなくてはなりません。

〈見る目可愛ゆき〉のお七のクドキから弁長、ッちよほくれへの変化。そして、既に源氏の御大将の牛若丸と浄瑠璃姫のくだりから矢矧の橋は長けれど〉の静から動への変化。この二つ重なる変化を、「注意を払わずに漫然と演ると、時としてこの作品は長つたらしく感じられることがある」と九代目は述べています。

人形を遣っている ころでやる

七代目の『舞踊藝話』では、次のように記されています。

夜鷹、瞽女、巫女、市子、等、いちいち文句の通りの振りで、ややもすると、ほんとの真似になりやすいのですが、「人形が踊っている振りのつもりでやる」。また、〈それとお七は後ろから〉では、「すべて、人形のもりで」女形で踊るのではなく、女形の振りで踊るころで踊る。一方、〈そもそもこれは桓武天皇〉では、知盛になるのではなく、「知盛の人形を遣っているころでやる」。

役柄を仕分けて変化をきっぱりさせなければ

ばなりません。その大枠として「人形が踊っている振りのつもりでやる」という心があると七代目は語っています。

冒頭で述べたように『傀儡師』は変化舞踊の一つで、『傾城』『大山参り』に続く演目。変化舞踊は役柄がガラツと変わるところに眼目があり、観客を楽しませてくれます。その中に組み込まれた『傀儡師』においては、変化舞踊とは違った変化の妙味、芸が求められたと考えられます。その意味においても単に「登場する役になる」のではなく、「人形を遣っているころでやる」という意味合いが深みを増してきます。

変わり目の妙味は 稽古の積み重ねの先に

八代目は、〈既に源氏の御大将〉のくだりの「チチンテンを丁寧にくッとおさえて踊るのだ」と七代目に教わったと著書に記していますが、七代目の舞台は、丁寧にくッとおさえて踊っておいて、矢矧の橋は長けれど〉でころッと変わって、極めて軽く踊る。また、〈そもそもこれは桓武天皇九代の後胤〉と『船弁慶』をもじった能がかりの知盛の亡霊から〈どうだ義公〉とがらりとくだけるところな

ど、役の変わり目が無類の芸だったと褒評されています。

では、この変わり目の妙味はどのようにすればよいのでしょうか。

十代目は「ある程度の年功。それから、踊りの技術が自分の中に……何といえはいいのでしよう……キラキラ見えるのではなく、簡単なことをやっているようで、実はいろいろなことが内包されている。そうやってこないこの踊りはむずかしいと思います」と述べています。

「教へべくして教へ難く、伝ふべくして伝へ難きは、踊りの秘訣なり」。これは七代目の踊りの師の一人である藤間勘右衛門の言葉。言うに言われぬいい味は、稽古の積み重ねの先の先に、自然と表出するものなのでしょうか。芸の道の遥かなることを思います。

※文中の〈〉は歌詞を示す。

◎参考文献

- ・利倉幸一編著『七世坂東三津五郎舞踊藝話』
- ・八世坂東三津五郎著『歌舞伎虚と実』
- ・八世坂東三津五郎著
- ・『聞きかじり見かじり読みかじり』
- ・坂東会報五一号(平成三年発行)
- ・『芸能花舞台』NHK放映(平成十六年)
- ・坂東三津五郎著『長谷部浩編』
- ・『坂東三津五郎踊りの愉しみ』
- ・兼子伴雨編『踊の秘訣』

坂東会のできごと

令和3年3～9月

坂東会行事の開催に向けて対策を議論し、準備を進めてまいりましたが、止むなく延期の判断をすることも……。2カ月に1度合同会議を行っています。どうぞ、皆さまの貴重なご意見を坂東会事務所までお寄せください。

三月三十一日(水) 企画部委員会

出席者／喜美生、ありか、はつ花
● 今後の企画について

令和三年度を実現したい企画、及びコロナ感染の状況が落ち着き次第実施する企画について話し合った。

四月七日(水)

● 合同会議「今期役員初顔合わせ」

出席者／久三之助、蝶、京弘女、勝規、三千踊、三奈慧、三太映、喜美生、ありか、はつ花、寿々風、鷹野

● 東京開催ゆかた会について
オンライン開催を検討しつつ、開催の可否を二カ月前までに判断する。

● 東京開催チャリティー舞踏会について
番組及びコロナ対策を検討。かつら合わせの時間を短縮する。

● 企画部より企画検討している内容についての報告
● 支部活動費について
領収書提出で事務所から支給。

四月八日(木) 理事会

出席者／久三之助、友女香寿、蝶、京弘女、勝規、鷹野
● 会報のリニューアルについて
「坂東会のできごと」として、坂東会の動きを報告するページを設ける。

● 坂東会創立一〇〇周年記念書籍の校正紙配布を受け、確認
● 企画部からの諸提案について
現時点で実施可能な企画として「ビデオ上映会」、三信之輔氏提案の

「三津之丞先生を語る対談」の動画配信を検討。

四月九日(金) 広報部委員会

出席者／三千踊、三奈慧、三太映、寿々風
● 会報一三五号初校

四月十五日(木) 広報部委員会

出席者／三千踊、三奈慧、三太映、寿々風
● 会報一三五号再校

四月二十二日(水) 理事会

出席者／久三之助、友女香寿、蝶、京弘女、勝規、鷹野
● 東京開催チャリティー舞踏会について
役員演目を理事による「雛鶴三番叟」に決定。

● 坂東会創立一〇〇周年記念舞踏会の番組について
五月中旬に実行委員会にて番組の順番を検討する予定。企画作品は現在調整中。

四月二十二日(木) 広報部委員会

出席者／三千踊、三奈慧、三太映、寿々風
● 会報一三五号色校

四月三十日(木) 広報部委員会

出席者／三千踊、三太映、喜美生、寿々風
● 会報一三五号送作業

「芸の伝承ビデオ上映会」 第1回開催のご報告

緊急事態宣言により、当初予定されていた6月5日(土)のビデオ上映会は、7月4日(日)神田のエッサム神田ホールで開催となりました。

開催日変更にもかかわらず、45名の会員が参加。講師の寿子先生からは、坂東流の道成寺の特徴は「大間でゆったりとした娘の曲」であることをお話しとともに自ら踊られてご講義いただき、今回のテーマの演目のみならず女の踊りの心構えと体の基本も教えていただきました。



五月十九日(水) 企画部委員会

出席者／喜美生、ありか
● ビデオ上映会について
講師、寿子先生との打ち合わせ。

五月二十五日(火) 理事会

● 六月五日(土)開催予定のビデオ上映会について
七月四日(日)に延期する。

六月十日(木) 合同会議

出席者／久三之助、蝶、京弘女、勝規、三千踊、三奈慧、三太映、喜美生、ありか、はつ花、寿々風、鷹野
● 坂東会グッズ販売について
マイバッグの販売承認及び手ぬぐいの検討。

● 東京開催ゆかた会の開催について
延期とし、来年開催する。

● 企画部より
今後のビデオ上映会の開催(三カ月に一度)と演目について。準備中の動画配信の中間報告。

● 秋の試験日の報告
式辞は延期。

企画部委員会

出席者／喜美生、はつ花
● 動画配信番組について
三信之輔氏、以津緒氏との打合せ。

七月四日(日)

● 「芸の伝承ビデオ上映会」京鹿子娘道成寺(前半)開催

青年部活動報告 (令和2年11月～令和3年9月)

コロナ禍においても意欲的に活動を続ける青年部。Zoomオンライン研修会、リモート講習会などの報告です。

第60回「家元研修会」

日時／令和3年1月23日(土)

場所／Zoomオンライン開催

参加者／28名

内容／「自分の顔にあった化粧の仕方・工夫を考える」

自分で化粧をする際の心構え、『流星』化粧解説とその応用(『京人形』甚五郎、『引窓』侍、先代の『喜撰』)、部員の化粧写真へのアドバイス等、家元よりご指導いただいた。

第61回「総会」

日時／3月20日(祝)

場所／Zoomオンライン開催

参加者／26名

内容／令和2年度活動報告、決算報告および次年度活動計画と実施方法を検討。

第62回「リモート講習会」

撮影日／7月12日(月)

場所／松竹衣裳

講師／荒直行先生、小川洋輔先生

内容／「小道具講習会」

『正札附』、『累』を中心に色々な小道具の説明をしていただいた。YouTube(限定公開)にて動画公開中(今年度中)。



「小道具講習会」の様子

「和文化はぐくみプロジェクト」

日時／9月15日(水)

ディスカバリーキッズスクール祐天寺にて、『富士』『さくら』の舞踊鑑賞、『星月夜』の体験

日時／11月3日(祝)(予定)

留学生支援企業協力協会依頼講習会。歌舞伎、歌舞伎舞踊、坂東流のお話。

七月六日(火)

【理事会】

- 出席者／久三之助、友女香寿、蝶、京弘女、勝規、鷹野
- 第一回ビデオ上映会について
- 会計報告と今後の課題。
- 坂東会SNSについて

広報部からの投稿も許可。文末に「坂東会広報部」と記載する。

● 令和四年の総会について

三月の開催(帝国ホテル)を検討。昼の時間帯、福引なし、新名取・新師範の紹介はあり。

七月十四日(水)

● 多磨霊園お墓参り

参加者／三千踊、三太映、喜美生、ありか、はつ花

七月

● 坂東流お揃いゆかた地「マイバッグ」販売開始

八月十日(火)

【合同会議】

- 出席者／久三之助、蝶、京弘女、三千踊、三太映、喜美生、はつ花、寿々風、鷹野
- 家元ご子息お誕生祝いについて

坂東会からお祝い五十万円をお届けした。

● 第一回ビデオ上映会の報告

反省と今後の課題、今後の演目について。

● 西日本チャリティー舞踊会

理事、企画、広報委員は基本的に参加協力する。

● 東京開催チャリティー舞踊会

担当割及びコロナ対策を検討。

● 企画部委員会

出席者／喜美生、はつ花
三信之輔氏が勝友先生、佳津先生

にインタビューを行った。

八月十二日(木)

【企画部委員会】

- 出席者／喜美生、はつ花
- 動画配信番組の録画撮り

三信之輔氏、以津緒氏による番組録画。

● 八月中旬

● 坂東会創立一〇〇周年記念書籍『初心忘れず』配本

記念手ぬぐい、「坂東会創立一〇〇周年記念舞踊会」チラシ同送。

八月十八日(水)

【理事会】

● 第二回ビデオ上映会について

延期の決定。

八月三十一日(火)

【広報部委員会】

出席者／三千踊、三奈慧、三太映、寿々風

● 会報一三六号編集会議

九月八日(水)

【理事会】

- 出席者／久三之助、蝶、京弘女、勝規、鷹野
- 東京開催チャリティー舞踊会について

感染対策チームを作り、感染予防対策をマニュアル化する。

プログラムの形態を再検討。開催の可否をかつら合わせの日までに判断する。

● ビデオ上映会について

延期とした第二回については第三回を予定していた十二月四日(土)を行う。

その後の日程は、三月第一土曜日：六月第一土曜日とする。

講習会


試験曲講習会

講習会の目的は名取試験、師範試験に向けたものですが、勉強のための受講希望者も受け付けています。

■北州・藤娘

師範会員の方対象、ただし師匠と一緒に受講するのであれば名取の方も受講できます。

日時／令和4年1月15日(出)

北州講習会／午前11時(30分前開場)
藤娘講習会／午後2時(30分前開場)

場所／祐天寺稽古場(目黒区祐天寺2-15,12)

受講料／北州10000円、藤娘5000円(名取受講料各5000円)

講師／三津枝 智和、映司

■松の緑

師範会員の方対象です。お弟子さんに名取試験をお考えの師範会員の方はご参加をお勧めします。

日時／令和4年1月30日(日)午後2時(30分前開場)

場所／祐天寺稽古場(目黒区祐天寺2-15,12)

受講料／5000円
講師／以津緒 真三様、扇輔

試験


春の名取・師範試験

詳しくは事務所までお問い合わせ

青年部部員募集

青年部では随時部員を募集しています。毎年2~3回程度の講習会や勉強会を企画しており、若手の名取・師範名取が技芸を磨き、交流を深める活動を行っています。部員資格は満49歳までの名取で、親師匠の許可があればどなたでも入会できます。年会費3000円です。

入会希望の方は、青年部企画部(坂東扇弘090-9300-4219)、青年部アドレス(seinenbu.renraku@gmail.com)までお問合せください。



コロナ禍ではZoomを使って活動

ください。
名取試験／来春予定
師範試験／来春予定
会場／未定
申し込み締切日／11月末日
※詳細は締切後、お知らせします。

お知らせ


第49回坂東会総会を開催します

詳細はハガキにてお知らせします。例年よりも定員を減らし、お食事はお弁当などを検討しています。新名取・新師範紹介は行います。
日時／令和4年3月19日(出)
会場／帝国ホテルを予定

チャリティー
舞踊会


第3回坂東流
チャリティーゆかた会を開催します

令和3年8月開催予定でした第3回は、1年の延期となりました。
日時／令和4年7月3日(日)
会場／日本橋公会堂(中央区日本橋蛸殻町)

第2回坂東流西日本

チャリティーゆかた会を開催します
日時／令和4年6月18日(出)
会場／京都先斗町歌舞練場

出演をご希望の方は
事務所へお問い合わせください。

チャリティーゆかた会は、名取だけでなく、一般のお弟子さんもお出演することができます。これを機会に芸の精進につなげませんか。出演費は38000円(西日本チャリティーは40000円)、入場券(10000円)が10枚含まれています。

※番数が揃い次第締め切りとさせていただきます。



第8回西日本チャリティー舞踊会
を開催します

初の京都先斗町での開催となります。秋の京都にお出かけください。お切符は出演者、または坂東会事務所までお問い合わせください。
日時／11月20日(出)正午開演(午前11時30分開場)

会場／先斗町歌舞練場(京都市中京区)

入場料／4000円

■出演者と演目

常磐津 老松	三津兵衛
常磐津 神楽娘	伊満若
義太夫 万歳	比路左・伊吹木
長唄 水仙丹前	沙美恵
義太夫 櫓のお七	寛遊鬼
常磐津 松島	呂扇
長唄 黒髪	和香代
長唄 丁稚	栄嘉・伊満若
長唄 静	作千好
長唄 藤娘	弥余伎女
清元 お祭り	伊峰
長唄 風流船揃	一二女
長唄 新鹿の子	三勇寿
長唄 蓬菜	温子

舞踊会



会員の舞踊会の情報です。お切符など詳細は会主、または坂東会事務所までお問い合わせください。

■ 蕙の会

日時／11月3日(水)・(祝)

主催／坂東啓

会場／国立劇場小劇場

■ つぼみ会

日時／11月21日(日)

主催／坂東愛

会場／国立劇場小劇場

■ 寛和会

日時／令和4年1月10日(月)・(祝)

主催／坂東寛二郎

会場／国立劇場小劇場

■ 一葉会

日時／令和4年4月17日(日)

12時30分開演

主催／坂東伊順

会場／鈴鹿市市民会館

その他



会員専用ページ情報満載！

坂東流ホームページご活用ください

行事や会員の活動を順次アップしていきます。

※会員ページパスワード：bando100

■ お稽古場を探す

掲載料／6000円(1年間)

掲載期間／年度末(3月末)まで

■ お稽古場訪問
掲載料／5400円(1回)
掲載期間／約1カ月

■ 富士・さくらの修了証の発行

流儀の曲である長唄『富士』、清元『さくら』を習得した方には、修了証を発行します。お申し込みの締切日は次の通りです。

締切日／2月10日、6月10日、10月10日

日

十世坂東三津五郎
七回忌追善狂言のお知らせ

11月歌舞伎座において、十代目のお家元の追善狂言として『寿曾我対面』が上演されます。

日時／11月1日(月)～26日(金)

第二部午後2時30分開演

出演／尾上菊五郎(工藤左衛門祐経)、坂東巳之助(曾我五郎時致)、中村時蔵(曾我十郎祐成)、尾上松緑(小林朝比奈)ほか

「芸の伝承 第2回
ビデオ上映会」の
お知らせ



第2回は9月4日を予定していましたが、東京都の緊急事態宣言を受けて12月に延期となりました。前回から日にちが空いてしまいましたので、道成寺前半も振り返ります。前回参加できなかった方もぜひご確認ください。

また第3回のビデオ上映会は、清元『納豆売り』を題材に寿子先生、勝友先生、温子先生にお話しいただく予定です。『納豆売り』は三津蔵師が伝承した坂東流にのみ残存する貴重な演目です。大勢の会員の皆さまのご参加をお待ちしています。

日時／12月4日(土)午後2時から
会場／国立劇場伝統芸能情報館
参加資格／坂東流門下であること(名取以外も参加可)
参加費／3,000円
申し込み／ハガキ、またはファックス、メールで「参加者全員の芸名・氏名」を記入の上、坂東会事務所までお申し込みください。
※第3回は令和4年3月4日(土)を予定しております。場所など詳細は、坂東会事務所までお問い合わせください。

■ 出演者と演目

企團番組	蝶・京弘女
長唄 雛鶴三番叟	友女香寿
長唄 藤娘	香寿重
長唄 新曲浦島	優二郎
長唄 鶯娘	姫菊
長唄 大原女	賢乃助
清元 北州	鈴梢
常磐津 屋敷娘	沙耶
長唄 連獅子	香奈洋・恵和
長唄 時雨西行	千扇・一十三
清元 お祭り	賢悠
常磐津 雷船頭	勝安栄
常磐津 こととい	三千優
長唄 俄獅子	寿雀
常磐津 朝顔売り	勇富
常磐津 年増	曾乃
大和楽 江戸風流	永紫・誠
長唄 楠公	利太郎

第57回坂東流たすけあい
チャリティー舞踊会を開催します

今年「北とびあさくらホール」(北区王子)にて開催します。お切符は出演者、または坂東会事務所までお問い合わせください。

日時／11月28日(日)午前11時開演

会場／北とびあさくらホール

入場料／5000円



マイバッグ

コンパクトで便利！
和装の装いにもぴったり

今年のお揃いゆかた地で作り
ました。バッグにしのはせ、補助
バッグとしてご活用ください。

サイズ／高さ40cm×幅31.5～33cm
(畳んだ状態12cm×12cm)

価格／3,000円(税別・送料込)



マスクケース

今や必需品！
ゆかた地で作ったスグレモノ

袱紗の形状で使いやすいサイズ
です。好評にて、若干数の取り扱
いがあります。

サイズ／高さ11cm×幅20cm
価格／2,500円(税込・送料込)



手ぬぐい

シンプルなデザインで
お稽古に最適

格子柄をデザインした坂東会オ
リジナルの手ぬぐいです。巻物な
どもご利用いただけます。

サイズ／長さ110cm
価格／1,800円(税込・送料込)



書籍

一般の書籍としてお手元に

8月に刊行になりました坂東会
創立100周年記念書籍。坂東流の
みならず、多くの方に手にとっ
ていただきたい一冊です。

判型／B5版・200ページ・箱入り・ク
ロス装
価格／3,000円(税別・送料別)

- 令和三年四月五日 坂東勝豊
- 令和三年五月二五日 坂東三嘉富
- 令和三年六月二十日 坂東小寿朗
- 令和三年七月十四日 坂東棧
- 令和三年七月十七日 坂東舟也
- 令和三年七月十九日 坂東三寿雅
- 令和三年七月二八日 坂東三与美
- 令和三年七月三二日 坂東三靖佳
- 令和三年八月四日 坂東章和香
- 令和三年八月十一日 坂東法穂
- 令和三年八月二二日 坂東寿吉
- 令和三年八月二四日 坂東喜久利
- 令和三年九月十四日 坂東三喜寿野

事務局だより

「坂東流及び坂東会約款」にもあります
通り、舞踊会開催の際は、事前に開催日、
場所、番組等を家元(自宅)及び坂東会事務
所へ届け出てください。

延期になりました一〇〇周年記念舞踊会
の日程も来年に決まり、少しずつ準備を進
めています。一人でも多くの方に足を運ん
でいただきたい思います。どうぞよろしく
お願いいたします。

(坂東会事務所鷹野)

坂東会

第一三六号
令和三年十一月一日発行

編集発行人 坂東会広報部
発行所 坂東会事務所

〒一〇一〇〇四七

東京都千代田区内神田一丁目十八ー十一 東京ロイヤルプラザ三〇一号

☎〇三(三三)五(一八)八(二一)〇
FAX 〇三(三三)五(一八)八(二一)〇
E-mail: bandokai@crux.ocn.ne.jp